

## VI 実習の記録

### 1. 実習記録の意義と役割

実習の記録は、実習期間中に実習のねらいにもとづき、毎日の実習を振り返り記録するものである。その意義としては以下の3つがあげられる。

- ・子どもの姿や活動を客観的に見て、事実をもとに記録することで、子どもの成長・発達が見える。
- ・実習で何をして何を感じたのかを記録することで、学びのプロセスが伝えられる。
- ・一日を振り返り書くことで、日々課題が意識化されるようになり、将来保育者となった時に保育記録を書く力につながっていく。

保育士としての基礎を形成する為の取り組みとも言える実習記録が、時間をかけ膨大な文字の羅列に終わらないよう、また、子どものかかわりと同等に実のある記録となるように、以下の点を意識して記録することが大切である。

- ・保育をよく観察し、観察したことを整理して、具体的かつ客観的に書く。
- ・実習体験の中で気づいたことや「なぜ?」「どうして?」と感じたことを、自分の考えを加えて書く。
- ・「こうしたらよかった」と反省したことを課題として書き、次の日からの実習に生かし、その成果を書くというサイクル型の記録となるように心掛ける。

実習記録は、その日のうちに整理して書くからこそ、実習中の子どもとのかかわりや子どもと共に体験したことが実感となって残る。実習記録を提出するだけでなく、思った事を言葉にして指導担当保育士に話し、指導者の考えをじかに聞くことも大切である。そうすることで記録だけでは分からない、実習生の思いを捉えて、指導していただけるであろう。実習期間中にこうした取り組みを重ねてまとめられた実習記録は、貴重な体験と数々の思いの詰まったものになり、この体験を文字に書き記すという行為が、将来保育士として実践記録を書く行為の第一歩となる。だからこそ、この一冊の実習記録は、保育士になる日まで自分を向上させるための貴重な基礎資料となり宝物になるのである。

#### (3) 毎日の実習（保育の流れ）記録 [様式3]

毎日の実習を時間系列で保育の流れに沿って記録する様式である。2週間すべて、この〔様式3〕を使用するのではなく、目的によっては、後述の〔様式4〕を使用する。以下の記入のポイントや記入例を参考に、各自が良く観察しながら実習したことを記録する。

##### 1) 実習（生）のねらい

実習（生）のねらいには、実習生が実習を通してその日に達成したいこと（その日のねらい）を前日に記入しておく。実習が進むにつれて、一日の中で丁寧に見ていく所を、実習のねらいとして取り上げていく。

- ①実習（生）のねらいが、例として㉞「一日の保育の流れを理解する」の場合は、その日の一日の保育の様子を、時間を追って記入したものとなる。実習1週目に各クラスへ順次入った場合などにふさわしい事例となる。
- ②実習（生）のねらいが、例として㉟「朝の受け入れから給食までの保育に積極的に参加し、一人ひとりの様子をしっかりと観察する」の場合は、その日の記録としては、給食までの半日を詳しく記入したものとなる。
- ③実習（生）のねらいが、例として㊱「部分実習で、給食と間食の準備から片付けまでを実践し、保育者の役割を理解する」の場合は、その日の記録は、給食と間食のところで実習生が実際に行った部分実習を丁寧に記録したものとなる。部分実習を行った時

間以外のところの記入は、ポイントを押さえ、簡単なものにする。

## 2) 主な活動 保育の内容

その日の子どもの生活や遊びの中で中心となった活動とその内容を実習生が理解して記入する。週案などを見せてもらった場合には、保育の内容欄を参考にして実習生の言葉で記入する。

## 3) 保育環境の中の子どもの姿や活動・保育者の援助や配慮

①保育所の生活と一日の流れを観察して、時間を追って記入する。または、一日の生活の流れの中で、一部分を丁寧に記録する。(一部分とは、上記の1)－②－①や③－⑦場合である)

②子どもの生活や遊びに対し保育環境はどのようになっているかを記入し、そこでの子どもの姿や活動を丁寧に記入する。

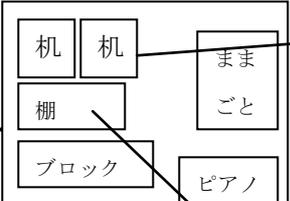
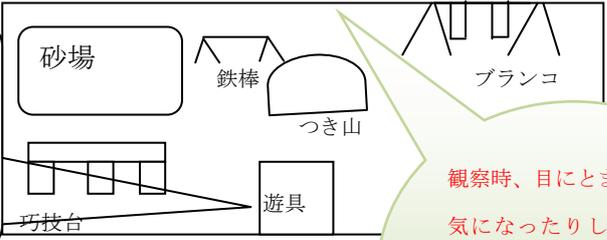
③保育者の援助や配慮の実際を、観察や参加を通して良く理解した上で記述する。

## 4) 実習生の動きと気づき

実習が観察・参加、部分実習、指導実習へと段階的に進む中で、それぞれの段階において、保育の流れに沿って子どもと実習生がかかわって行動したことや子どもの姿・保育士の姿から気づいたことを記入する。

## 5) 振り返りと学び

その日の実習を振り返って、印象に残った場面や子どもの姿から学んだことを記入する。また、実習のねらいに対して出来たことや反省点とそこからでてきた課題等を記入し明日の実習に繋げる。記録がサイクル化するように意識して書く。

7月2日 火曜日 天候 晴		実習生氏名 頑張 はな子	
担任名 花丸 習子	りす 組	3 歳児	園児数 15人 欠席数 2人
実習 (生) のねらい		朝の登園時、保育者が子どもにどのように声をかけているのか観察する。	
主な活動 保育の内容		好きな遊びをする。	
時間	保育の流れと保育環境の中の子どもの姿や活動・保育者の援助や配慮	実習生の動きと気づき	
～	● 順次登園する。係・早朝保育から移行する子どもの引き継ぎ。	実習する組のその日の主な活動を書きます。わからない時は、指導していただく保育者に聞きましょう。	
9:00	⊕・挨拶をする。係・保育者から明るく子どもと挨拶を交わす ⊕・持ち物を片づける。 	<ul style="list-style-type: none"> <li>登園してきた子どもに挨拶をする。親にも進んで挨拶をする。</li> <li>子どもの動きを見ながら持ち物の片づけを手伝う。</li> </ul>	
9:30	● 好きな遊びをする。係・子どもが持ち物を自分で片づけられるように言葉がたり、手伝ったりする。 ブロック、ままごと、お絵かき、粘土など。 係・子どもが好きな遊びを自分で選べるように玩具、用具を使いやすいように出しておく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分でやれる子どもとやれない子どもの差が良くわかった。</li> <li>気づきは⊕と表示 ⇒ 気づいたことは、些細なことでも書いておくようにする。子の気づきに対しての指導者のコメントを振り返りの記載の参考にする。</li> <li>⊕ケンカの対応の仕方が難しいと思った。子どもの言い分をどのように受け止めると良いのかが分からなかった。</li> </ul>	
10:00	● 園庭で好きな遊びをする。 砂場遊び、ブランコ、鉄棒、巧技台など。 ⊕・戸外に出たくないという子どももいた。 ・男の子2人が玩具の取り合いでケンカになった	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察時、目にとまったり、気になったりした子どもの姿を書き、一日を振り返る時の参考にして、子どもの理解を深める。</li> </ul>	
10:30		<ul style="list-style-type: none"> <li>環境構成を図示する時はなるべく詳しく書くようにし、図だけではなく解説も入れる。また、出している玩具やその数なども表示する。</li> </ul>	
11:00	係・天気の良い日だったので、戸外に誘うように、し、保育者も一緒に体を動かして遊ぶ。 係・玩具が順番に使えるように声をかけたり、保育者も順番に入って遊んで、交替することを促すようにする。玩具の名前を表示しておく	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと一緒に遊ぶ。</li> <li>子どもに片づけるように声をかけながら一緒に片づける。</li> <li>⊕片づけない子どもへ、片づけるように強く言って良いのかどうかわからず迷って、結局声をかけなかった。</li> </ul>	
11:30	● 片づけをする。 ⊕・みんなで玩具を決められた場所に片づける。 ⊕・片づけをせずに遊び続ける子どももいた。 ⊕・片づける場所がわかりやすいように、玩具の入れ物に絵表示してあるところ置くようにし、子どもにどこに入れるとよいか声をかける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境構成等で保育者の配慮が感じられるものは細かく書く方がよい。</li> </ul>	
11:30	● 給食の準備をする。		

<p>12:00</p>	<p>㊦・排せつをする。</p> <p>㊦・手を洗う。</p> <p>㊦・排せつの時の下着の着脱では、子ども一人ひとりの様子をよく見て、自分でできるように援助する。</p> <p>㊦うがい・手洗いが順番にできるように声をかける。手洗いの仕方を見せながら洗い、手がきれいになったことを一緒に喜ぶ。</p> <p>㊦・給食を食べるための机を用意する。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">       ここで盛り付けて配る。     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">       配膳     </div> <div style="display: flex; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">机</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">机</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">机</div> </div> </div> <p>㊦・給食の配膳をする。㊦・座って待つ。座れない子どもや歩き回る子どももいる。</p> <p>㊦・配膳をしながら、子ども一人ひとりの様子を見て、給食が楽しみになるような言葉をかける。</p> <p>●給食を食べる。㊦・「いただきます」の挨拶をしてから食べ始める。</p> <p style="text-align: right;">以下略</p> <p>*観察したことを 保育の流れに沿って、保育環境の中の子どもの活動や姿、保育者が子どもとかかわっている様子や言葉がけていることなど、書き込んでいくようにする。</p> <p>*保育者が子どもとかかわっている時には必ず、かかわる意図や目的、子ども一人ひとりの生活や育ちの課題(その子に経験させたいことや、達成してほしい事など)に対する援助の目的があることが多い。</p> <p>*観察する時は、保育者が子どもとかかわる時、なぜそのようにかかわっているのかよく考えて、援助や配慮の記述に書いてみるとよい。</p> <p>㊦◎この欄を、環境構成・子どもの活動、姿・保育者の援助や配慮に分けて書く場合があるが、記述する内容は同じである。実習では、観察したことを書くため、できるだけ自由に記述することができるように、区切りの線を取り払った。</p>	<p>・子どもと一緒に手を洗う。</p> <p>・腕まくりなどできない子どもには手助けをする。</p> <p>㊦手を洗わず遊んでいる子どもに、担任の先生がかけていた言葉に学んで、同じように行ってみた。</p> <p>・給食の配膳を手伝う。</p> <p>・子どもが座れるように声をかける。</p> <p>・給食を一緒に食べる。</p> <p>㊦偏食のある子どもがいるが、具体的な援助は難しいと感じた。これから挑戦してみたい。</p> <p>~~~~~</p> <p>*子どもの発達や行動に関する疑問や、子どもの援助の仕方に対すること、保育者がなぜ、その子と、そのようにかかわっているのか等を書く。</p>
<p>振り返りと学び</p>		
<p>*一日の観察から、子どもの生活の様子や発達、自分と子どものかかわり、保育者と子どもとのかかわりの様子などから気づいたことや考えたことや思ったことを振り返り書く。</p>		
<p>*振り返りの中から学んだことをまとめる。</p>		
<p>~~~~~</p> <p>~~~~~</p> <p>~~~~~</p> <p>~~~~~</p> <p>~~~~~</p> <p>~~~~~</p>		
<p>指導者のことば</p>		
		<p>指導担当保育士 印</p>